

科目ナンバー	POL-B-5-10		
授業コード	22151		
科目名	人文学特殊講義（国際教養）D		
担当者	小宮山 功一郎		
開講期	2021年度春学期	科目区分	週間授業
履修開始年次	3年	単位数	2単位
曜日/時限	水曜5限		
授業題目	国際サイバーセキュリティ論		
授業の達成目標	今日の我々の生活にインターネットをはじめとするサイバー空間の存在は欠かせない。そしてそのサイバー空間を安全に保つサイバーセキュリティの仕組みの社会的重要性が高まっている。授業を通じて学生は以下の3点を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国家や軍隊やインテリジェンス機関や犯罪者がそれぞれに情報を得るために活動を行っていることを理解する。</li> <li>・ 学生は本授業によってサイバーセキュリティの基礎的な理論を学ぶ。それにより技術のトレンドを超えたあるべきサイバーセキュリティ確保の手段の基礎を習得する。</li> <li>・ スマホ/メッセージングアプリ/ソーシャルメディア/メールなどの重要なツールを使う上でのサイバーセキュリティ上のリスクと対策を理解する。</li> </ul>		
今年度の授業内容	スライドや映像資料を中心に、講義形式で授業をすすめる。学生同士の議論とその内容の発表も取り入れる。		
自習に関する一般的な指示事項	特になし。		
授業スケジュール			
第1回	初回ガイダンス: サイバーセキュリティ論とはなにか。サイバー空間における勢力争いの構図にはどのようなパターンがあるか。		
第2回	情報セキュリティの理論: 情報を守るための基本的な原則はあるか。		
第3回	様々なタイプのサイバー攻撃: 誰が誰に対してどのようなサイバー攻撃を行っているのだろうか。		
第4回	サイバー戦争: 現在確認されている最も高度なサイバー攻撃はどのようなものか。防衛の手立てはあるか。		
第5回	民主主義国家の苦悩: サイバー空間は社会を民主化するという専門家の予測が外れたのはなぜか。		
第6回	サイバーセキュリティ対応と国際協調(ゲストスピーカーによる講義)。		
第7回	情報を支配する権威主義国家 その1: 中国はどのように自国のサイバーセキュリティを高めることに成功したか。なぜロシアは中国の様な成功を収めることができなかったのか。		
第8回	情報を支配する権威主義国家 その2: なぜ北朝鮮は中国や韓国のような成功を収めることができなかったのか。		
第9回	グローバルテックカンパニーの力 その1: なぜGAFAなどのグローバル企業は部分的に国家をしのぐほどの力を手にしたのか。		
第10回	グローバルテックカンパニーの力 その2: 中国のグローバル企業の戦略はなにか。中国製通信機器を巡る摩擦はどうして起きたか。		
第11回	コンピューターウイルス(ゲストスピーカーによる講義)。		
第12回	CSIRT: インシデント対応コミュニティが果たす役割は何か。		
第13回	サイバーセキュリティリテラシー その1: スマホ/メッセージングアプリを安全に使う		
第14回	サイバーセキュリティリテラシー その2: ソーシャルメディアを安全に使う		
第15回	総括: サイバーセキュリティの未来はどうなるのか。		
授業の運営方法	講師が投影するスライドを使いながら講義を行う。授業は毎回最初の15分にセキュリティリテラシーの解説を行い、その後本論にはいる。 毎回授業後に、短い課題提出を求める。この課題提出をもって出席と判断する。		
成績評価の方法 ※次の評価基準・割合に基づき評価されます。			
評価の種類	割合 (%)	評価方法、評価基準	
定期試験		0%	実施しない。
小論文・レポート		60%	中間、期末レポートの提出。
授業参加		40%	発表、討論参加、質問、コメントなどの授業参加と毎回授業後のリアクションペーパー提出を以て判断する。
その他		0%	

テキスト	テキストは用いない。
参考文献	土屋大洋. 2015. サイバーセキュリティと国際政治. 千倉書房. 塩原俊彦. 2019. サイバー空間における覇権争奪 個人・国家・産業・法規制のゆくえ. 社会評論社. 小宮山功一朗. 2020. “サイバーセキュリティのグローバル・ガバナンス.” 慶應義塾大学 土屋大洋. 2020. サイバークレートゲーム. 千倉書房.
関連ページ	
その他、履修生への注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、授業運営方法を変更する可能性がある。初回の授業ガイダンスに必ず出席し、授業の達成目標と運営方法について最新情報を得ること。</li> <li>・本学の対面授業実施の原則に従い、講師は毎回教室から教室内の学生とオンラインの学生に対して授業を行う。</li> <li>・ゲストスピーカーによる授業は、日本のサイバーセキュリティ分野で活躍する方に依頼し、現場での経験を中心に講演いただく。日程調整の都合で授業スケジュールを前後する可能性がある。</li> </ul>
実務経験のある教員による授業科目（令和2年度から該当科目に記載されます）	
実務経験の概要	ソフトウェア会社で技術者として4年働いた後に、サイバーセキュリティ対応を行う非営利団体で15年にわたり、サイバーセキュリティ問題に取り組んできた。
実務経験と授業科目との関連性	上記の、実務経験を元に講義を行う。